



## Web時代の利用者教育 グループ1

「Web時代の利用者教育」グループ1 参加者8名。このテーマに対し、どのような形で行っているか、現況を知るため、5つのキーワードを挙げた。

「環境」ほとんどの図書室でインターネット接続可能。一部、院内LANで繋がっている。

「種類」文献検索は医中誌Web、PubMed、JOISを利用。

利用マニュアルは、病院独自のものやサンメディア・医中誌など業者作成のもの。

院内LANで、図書室からのお知らせや新着雑誌タイトルなどを発信。

「対象」病院医師、看護師、コメディカル、また地域に開放している病院では他院医師や看護師など。

「時期」入職時オリエンテーション、中途入職者は個別、また質問された時に随時行っている。

「必要性」必要である

情報が氾濫している中、的確で効率の良いものを入手するために、正しい検索方法を知ることは重要かつ、必要である。私たち図書室員にとっても、進化している時代に合わせ、絶えずその情報収集法を学習し、なおかつ自己研鑽を行っていくことは欠かせないことである。

(文責：名古屋記念病院 佐藤 典子)

## Web時代の利用者教育 グループ2

メンバー8人全員“KJ法”による討議が初めてでしたので、方法がよくわからないまま成り行きで進めました。まず、自己紹介の後、おのおのがテーマに関することについて問題点を思いつくままカードに書き出しました。次に、書き出した58枚のカードを整理すると、12のグループ(1. 図書室からの情報発信、2. 利用者が見えない、3. わがままな利用者、4. 実習生への対応、5. 基本マニュアルは必要か、6. 教育は個別か集団か、7. 定例ガイダンスの必要性があるか、8. パソコン利用規定、9. パソコン基本操作、10. オンラインジャーナル、11. 図書館員自身のスキルアップ、12. インタビュー技術)に分かれました。これらについて、現在問題となっていることを話し合っているうちに、“利用者”と“図書館員”のサイドから分けるとわかりやすいのではないかという提案があり、その視点から模造紙に書き出しました。全体から見ると、利用者・図書館員の両サイドに関連する“利用者教育の方法”の問題が比較的多く、どのように改善したらよいのか、他の病院ではどのようにしているのかということに興味があるようでした。

それぞれの図書室でのWeb導入に伴う身近な問題を取り上げた討議となりましたが、皆、同じことで悩んでいることを知り、皆に負けないう頑張りという意欲が湧きました。時間の都合上、具体的な解決方法まで討議できなかったのが残念ですが、最終的には、担当者自身がスキルアップし、コミュニケーションを駆使して、これからのWeb時代における利用者が“知りたい・求めている”情報を、積極的に図書室から発信していくことが図書室の活性化にもつながっていくのではという結論にまとまりました。

(文責：倉敷中央病院 小坂 恵)